

2023年6月4日
宮崎中部教会主日拝
牧師 乾元美

エゼキエル書 36 : 25～27

ローマの信徒への手紙 6 : 3～4

「キリストに浸される」

(ハイデルベルク信仰問答 問 69～71) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】

【招詞】 詩編 33 : 1～5

【祈祷】

【聖書】 エゼキエル書 36 : 25～27、ローマの信徒への手紙 6 : 3～4

【説教】 「キリストに浸される」

<洗礼>

今日の御言葉は、洗礼について語られているところです。

教会は、イエスさまの救いを信じて、洗礼を受けた者たちの群れです。教会のクリスチャンとはどのような人のことですか、と聞かれたなら、「洗礼を受けた人です」と答えることが出来るでしょう。

洗礼は、人間が考え出したものではありません。洗礼は、神の御子イエスさまがお命じになったことであり、弟子たちの時代の初代教会から、今もずっと続けられていることです。

マタイによる福音書の 28 : 18 以下には、十字架に架かって死に、そして復活なされたイエスさまが、弟子たちに現れて、こう命じられる場面があります。

「イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』」

このイエスさまのご命令を、教会はずっと守り続けているのです。

洗礼は、イエスさまの十字架と復活の救いを信じて、その恵みを確かに受け取った、ということのしるしです。そして、洗礼は、聖霊のお働きを受けて、地上を歩むわたしたちが、天におられるイエスさまと、一つに結ばれる出来事です。

この教会の洗礼においては、必ず大切にされていることがあります。それは、イエスさまのご命令通り、父と、子と、聖霊の名によって授けられること。しるしとして、水が用いられること。そして、生涯に一度限り、授けられるものである、ということです。

ときどき、洗礼を受けた時に自分はまだ若くて、実は救いをよくわかっていなかったから、今、改めて受け直したい、なんていう方があります。

でも、洗礼を受けた、という事実は、受ける側の人間の問題で、どうこうなるものではありません。わたしの理解度が低かったから、あの時の洗礼は意味がなかった、なんていうことは絶対にありません。

洗礼は、神さまがなさって下さる出来事です。わたしに救いの御業を行って下さった、神さまの恵みを現わすものであり、その神さまご自身が与えて下さる、しるしなのです。

ですから洗礼は、生涯に一度限りであり、その一度で、完全であり、十分なのです。

また時々、「救われたいので、洗礼を受けたい」と仰る方がいます。でも、洗礼を受けることが、救われる、ということではありません。洗礼という行為が、救いそのものではないのです。

わたしたちの救いは、イエスさまにあります。イエスさまの十字架の死と、復活によって、すでに、救いの御業は成し遂げられています。そして、神さまはもうすでに、わたしたちの目の前に、そのイエスさまの罪の赦しを、永遠の命を、救いの恵みを、差し出して下さっているのです。その、神さまが無条件で差し出して下さる救いを、自分のための救いであると信じて、感謝して、喜んで、受け取る。そのことによって、救われるのです。

そしてこの、救いを受け取ったという、目に見えない信仰の出来事が、確実なものとするために。しっかり、救いをこの身に受け取った、ということが、わたし自身に分かるように。神さまは、目に見えるしるしとして、洗礼を与えて下さったのです。

<洗い>

さて、主の日の礼拝ごとに、『ハイデルベルク信仰問答』から御言葉を聞いていますが、今週からしばらくは、この「洗礼」についての問答になります。

洗礼は、ギリシア語で「バプテスマ」と言います。この言葉は本来、「浸す、沈める」という意味があります。また、「洗い清める」という意味で使われることもあります。

洗礼に水が用いられるのは、水によって、汚れが落とされ、洗い清められる、という、その目に見える現象が、わたしたちに起こる、目に見えない救いの出来事と、類似性があるから。つまり、似ているからです。

そもそも、洗礼に水が用いられるのは、洗礼者ヨハネがヨルダン川で授けていた、悔い改めの洗礼が起源であると言われていました。

しかし、預言者でもあった洗礼者ヨハネは、イエスさまのことを指し示して、「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」そう、宣べ伝えたのでした。(マルコによる福音書 1: 7~8)

そして、まさにその通りに、ヨハネの後に来られた、神の御子イエスさまは、十字架と復活の救いの御業を成し遂げられた後、すべての者に洗礼を授けることをお命じになりました。

ですから、教会では、イエスさまに従って、聖霊なる神さまのお働きのもとで、水を用いて、洗礼が行われているのです。

『ハイデルベルク信仰問答』は、洗礼について、水のしるしを用いることから、特に「洗い」ということを主軸において、洗礼のことを教えようとしています。

問 69 はこう言っています。「あなたは聖なる洗礼において、十字架上でキリストの唯一の犠牲があなたの益になることを、どのように思い起こしました確信させられるのですか。」

「答 次のようにです。キリストがこの外的な水の洗いを制定された時、約束なされたことは、わたしがわたしの魂の汚れ、すなわち、わたしのすべての罪を、この方の血と霊とによって確実に洗っていただける、ということ。そして、それは日頃体の汚れを落としているその水で、わたしが外的に洗われるのと同じくらい確実である、ということです。」

水は、汚れを洗い落とします。体に泥がついて汚れたなら、水で洗えば、泥が落ちてキレイになります。これは誰にとっても、一目瞭然のことです。

この、厳然たる事実と全く同じように、外的に、体が水で洗われるのと同じように、十字架上でキリストの唯一の犠牲によって。つまり、イエスさまが、わたしの罪を担い、わたしの代わりに十字架で死んで下さった、その出来事によって。確かに、わたしのすべての罪が、洗われたのです。

わたしの罪が洗われる、というのは、目には見えない出来事です。しかし、水が目に見えて、体の汚れを落とすのと全く同じように、イエスさまが血と霊によって、罪に汚れたわたしを、確実に洗ってくださった。そのことが、まことの現実として、この身に起こった。

洗礼は、その確信を、目に見える水を使って、わたしたち一人一人の心に刻むためのもの。そのことを、思い起こし、また確信させるためのものなのです。

<血と霊の洗い>

では、イエスさまの血と霊によって、わたしたちが洗われる、というのは、具体的にどういうことを意味しているのでしょうか。

そのことを、ハイデルベルクの間 70 が、続けて詳しく語ります。

「問 70 キリストの血と霊とによって洗われるとは、どういうことですか。」

「答 それは、十字架上で犠牲において、わたしたちのために流されたキリストの血のゆえに、恵みによって、神から罪の赦しを得る、ということです。さらに、聖霊によって新しくされ、キリストの一部として聖別される、ということでもあります。それは、わたしたちが次第次第に罪に死に、いっそう敬虔で潔白な生涯を歩むためなのです。」

外的な、目に見える水の洗い、洗礼において、わたしたちは、イエスさまの血と霊によって、罪を確実に洗われることを、心に刻み、確信します。

その、「キリストの血と霊とによって洗われる」とは、どういうことか。そこで、二つのことが語られています。

一つは、「十字架の上での犠牲において、わたしたちのために流されたキリストの血のゆえに、恵みによって、神から罪の赦しを得る、ということです」。

まず、キリストの血とは、イエスさまが十字架の上で、わたしたちの罪の贖いとなるために流された血のことを意味しています。このイエスさまが流された血によって、イエスさまの十字架の死によって、わたしたちは、神さまから罪の赦しを与えられた。

キリストの血によって、罪を洗われるとは、そのことを意味しています。

そして二つ目は、「さらに、聖霊によって新しくされ、キリストの一部分として聖別される、ということ」です。

キリストの霊とは、聖霊のことを意味しています。洗礼において、わたしたちは聖霊のお働きを受けて、イエスさまと一つに結ばれます。そして、もはや罪に属する者ではなく、イエスさまに属する者、神さまに属する者とされ、神さまのものとして生きる、新しい命を与えられるのです。

水は、命を与えるもの、養うもの、生かすものであり、生命の源ということも出来ます。そうして水が、命を生かすように。キリストの霊、聖霊が、わたしたちに注がれることで、罪を洗われたわたしたちは、霊に満たされ、イエスさまのものとされて、新しく生まれる、新しく生きる者となるのです。

<キリストに浸される>

こうして示されてきたように、洗礼とは、イエスさまの十字架の死をいただくことであり、同時に、イエスさまの復活の命をいただくことです。

そのことは、特に今日読まれたローマの信徒への手紙6章に、詳しく語られています。

特に、3～4節にはこうあります。「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。」

3節には、「キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたち」とあります。

先ほど、洗礼という「バプテスマ」という言葉は、「浸す、沈める」という意味があるとお伝えしました。ですから、ここの部分を直訳すれば、「わたしたちが皆、キリスト・イエスの中へと沈められたのは、彼の死の中に沈められたのです」となります。

洗礼には、全身を川の中や水の中に沈めて浸す、「浸礼」という方法と、頭の上に手で水をかける「滴礼」という方法があります。わたしたちの教会は、滴礼という方法で洗礼を授けますが、全身を水の中に浸す「浸礼」は、このローマの信徒への手紙に書かれていることを、実際によく表している方法です。

頭まで、どっぷりと水に浸される。全身が水に浸かる。わたしたちも、プールや海などで、あるいはお風呂でも、経験したことがあると思います。

それと同じように、洗礼とは、聖霊のお働きによって、わたしたちが、イエスさまの中に、どっぷりと浸され、沈められることなのです。そこで、イエスさまのすべての恵みの中に、わたしの存在すべてを入れられる、ということなのです。

そうして、わたしたちは、イエスさまと一つに結ばれます。

そのことによって、まずわたしたちは、イエスさまの十字架の死に与ることになります。

「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。」とある通りです。

わたしたちは、神さまに背き、逆らい、神さまを愛さず、隣人を愛さず、自分勝手に歩もうとする罪人でした。その神さまに対する罪によって、わたしたちは神さまの怒りを買ひ、裁きを受け、滅ぼされてもおかしくない者だったのです。もはや、わたしたちは自分で自分の罪を、どうすることも出来なくなっていました。

しかし神さまは、それでもわたしたちを愛して下さり、憐れんで下さり、ご自分の御子イエスさまに、わたしたちの罪を、すべて担わせ、すべて償わせられたのです。

そうして、イエスさまが十字架で苦しみ、呪われ、死んでくださった、その罪の裁きの死を。わたしが裁かれ、死んでことにして下さる。そうして、罪人のわたしは、イエスさまの十字架の死と共に、確かに死んで、葬られたのです。

そして、罪に死んだわたしたちは、イエスさまが死者の中から復活なさったように、イエスさまの霊を受けて、新しい命を受け、生きるものとされます。

4節に「それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。」とある通りです。

この新しい命は、もはや罪に支配されていません。洗礼を受け、イエスさまと結ばれ、罪に死んだわたしは、そこから、イエスさまのご支配の中にどっぷりと浸されている、新しい命を生き始めるのです。

それは、もはや罪に捕らわれた、自己中心的な人生ではなく。神さまに捕らわれて、神さまに向かって歩む人生、神さまに対して生きる人生です。

これが、洗礼を受けるということであり、イエスさまの血と霊によって、罪を洗われるということなのです。

<次第次第に>

ですから、この洗礼から、イエスさまに結ばれ、霊によって新しく生まれた者の、新しい人生が始まります。ここからが、本当の信仰生活のスタートです。

洗礼は、何か信仰のことが完全に分かったから受けるとか、聖書のことをよく理解して合格点を取ってから受けるというような、ゴールのようなものではありません。もちろん、神さまがどのようなお方か、イエスさまの救いとは何か、という信仰の学びは大切です。

でも、本当に洗礼において大切なことは、聖霊の導きのもとに語られた御言葉を通して、イエスさまの十字架と復活が、わたしのために成し遂げられた救いである、と信じて受け入れること。それほど神さまが、わたしを愛して下さっているということを、心から感謝して受け入れることです。

そうして洗礼を受けることから、神さまの愛に、恵みに、応えていく生活。神さまを愛し、信頼し、心から礼拝して生きていく人生が始まります。

ですから洗礼は、信仰のスタート地点に立つことだ、と言われるのです。

ですから、ハイデルベルクの間 70 の答えの最後には、このようにありました。「それは、わたしたちが次第次第に罪に死に、いっそう敬虔で潔白な生涯を歩むためなのです。」

次第次第に、とあります。これが大切です。

わたしたちは、洗礼を受けたその日から、人が変わったように、素晴らしい、愛に溢れた人間、一切貪欲のない、清らかな人間になるわけではありません。それに、身の回りのことが全部うまく行くようになったり、良いことばかりが起きるようになるわけでもありません。

洗礼を受けたとしても、昨日の生活は、今日も、明日も続きます。苦しみや悲しみは、やはり起こってきます。罪に死んだはずなのに、やはり罪を繰り返してしまう、どうしようもない自分の現実に、躓きそうになります。

でも、洗礼を受けた者は、自分の目の前の罪の現実が、自分を支配しているのではない、と知っているのです。

わたしはイエスさまに支配された、イエスさまのものである。わたしは、確実に、イエスさまに浸され、イエスさまに捕らわれ、イエスさまに罪を洗われている。イエスさまの命に生かされている。イエスさまの霊によって、新しくされている。

この、目に見えない恵み、しかし、洗礼によって、この身に確かに受けた、イエスさまの救いの恵みを、約束を、わたしたちは、確かな拠り所とすることが出来るのです。

わたしたちは、日々、罪を犯しますが、一つに結ばれているイエスさまの十字架の死によって、日々、赦されています。そして、日々、新しくされていきます。

そのように、イエスさまと一つにされて歩み始めた、新しい命の中で。わたしたちは、次第次第に、罪に死んでいくのです。そして、いっそう敬虔で潔白な生涯。つまり、いよいよ謙虚にされ、いよいよ神さまに頼り、いよいよ罪から離れることを願う、そのような歩みを、一歩ずつ一歩ずつ、次第次第に、進めさせていただくのです。

<神さまの保証>

洗礼や、聖餐などの「聖礼典」は、見えない恵みを示すための、目に見えるしるしとして与えられているものです。また、これは証印である、とも言われます。

証印とは、神さまが保証して下さるということです。

わたしたちは、心で思っているだけでは、覚悟や決意を持っているだけでは、信仰の歩みを続けることは出来ません。

人間の心の思いなどは、何かあればいつでも簡単に吹き飛ばすようなものだからです。

だから神さまは、わたしたちが自分自身で、与えられた信仰を、確かなものとして保ち、守り続けなければならないのではなく、神さまが、わたしたちに与えて下さった信仰を、確かなものとして下さる。神さまが、保って下さり、守って下さる。そのことを、洗礼、そして聖餐という、目に見える確かさをもって、わたしたちに保証して下さいます。

洗礼を受けた、という事実は、イエスさまの救いの恵みを、確かに受け取った、というその事実は、もうその人の生涯から、決して取り消されることはありません。これは、神さまがなさって下さった恵みの御業であり、神さまの出来事だからです。

ですから、たとえその後、ひと時、本人がその恵みを忘れそうになっても、神さまから離れそうになっても、ときどき疑ったり、迷ったりすることがあったとしても、神さまの方が、いつもその救いの御手で、わたしたちを捕らえていて下さり、決して離さないでいて下さるに違いありません。

そして神さまは、イエスさまに結ばれたわたしたちが、信仰生活の中で、豊かに実を結ぶことが出来るように、恵みをますます豊かに注ぎ、また十分に整えて下さるでしょう。

神さまが、わたしたちに救いの恵みに生きる信仰を与えて下さり、また、それを確かにし、導き、保ち、守って下さいます。わたしたちは、神さまに支配されているのです。

洗礼を授かったという、わたしの身に起こった、神さまの恵みの出来事。それは、わたしの生涯の慰めであり、拠り所であり、そして、神さまからの、確かな保証なのです。

【お祈り】

天の父なる神さま 御名をほめたたえます。

聖霊の導きの内に、信仰が与えられ、洗礼を授かり、イエスさまの救いの恵みを確かにこの身に受けたこと。罪に死に、神さまに対して生きる者とされたことを、感謝いたします。

また、今日は聖餐によっても、わたしたちが確かにイエスさまと一体とされ、イエスさまの御体に生かされていることを、目に見えるしるしで明らかにし、わたしたちの信仰を確かにして、強めて下さいます。感謝いたします。

どうか、わたしたちが、神さまにより頼むことによって、恵みに留まり、豊かな実を結ぶ者とされ、終わりの日まで、信仰の道を歩み抜かせていただくことが出来ますように。

また、どうか一人でも多くの者が、聖霊によって、救いの確信を与えられ、洗礼の恵みを受け、イエスさまに結ばれ、この聖餐の食卓に、共に与れますようにと、心から祈り願います。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 67 「貴きイエスよ」

【信仰告白】 使徒信条

【聖餐】 【讚美歌】 72 「まごころもて」

【献金】 【主の祈り】

【讚美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン